

テーマ：貿易統計（2015年6月）

発表日：2015年7月23日（木）

～4-6月期実質輸出は4四半期ぶりのマイナス～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
 TEL：03-5221-4524

| | 貿易収支(億円) | | | | 輸出数量 | | | | | | 輸入数量 | | | | | | | |
|----|----------|--------|--------|------|-------|------|------|------|------|-------|-------|------|-------|-----|-----|-----|-----|--|
| | 原数値 | | 季調値 | | 輸出金額 | | アメリカ | | EU | | アジア | | アメリカ | | EU | | アジア | |
| | | | | | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | | |
| 14 | 1月 | ▲27951 | ▲17854 | 9.4 | 25.1 | ▲0.2 | 6.3 | 5.5 | ▲2.0 | 8.0 | 15.3 | 9.3 | 10.9 | | | | | |
| | 2月 | ▲8061 | ▲10086 | 9.8 | 9.1 | 5.4 | ▲1.0 | 8.2 | 5.0 | ▲0.5 | 16.1 | 8.6 | ▲2.8 | | | | | |
| | 3月 | ▲14501 | ▲19136 | 1.8 | 18.2 | ▲2.5 | 1.5 | ▲0.3 | ▲4.9 | 11.6 | 13.3 | 12.8 | 11.3 | | | | | |
| | 4月 | ▲8255 | ▲9446 | 5.0 | 3.6 | 2.0 | ▲1.5 | 4.8 | ▲1.3 | ▲1.3 | 6.2 | 0.7 | 1.0 | | | | | |
| | 5月 | ▲9172 | ▲8648 | ▲2.8 | ▲3.5 | ▲3.4 | ▲1.9 | 6.4 | ▲5.0 | ▲4.0 | 1.0 | ▲0.7 | ▲2.3 | | | | | |
| | 6月 | ▲8341 | ▲10769 | ▲2.0 | 8.6 | ▲1.6 | ▲1.8 | 4.5 | ▲5.4 | 7.2 | 6.5 | 7.9 | 8.2 | | | | | |
| | 7月 | ▲9665 | ▲10080 | 3.9 | 2.4 | 1.0 | ▲1.0 | 3.7 | 0.7 | ▲0.4 | ▲0.6 | ▲2.8 | ▲2.7 | | | | | |
| | 8月 | ▲9532 | ▲9271 | ▲1.3 | ▲1.4 | ▲3.0 | ▲6.2 | 1.0 | ▲3.5 | ▲4.6 | ▲2.4 | ▲3.3 | ▲5.0 | | | | | |
| | 9月 | ▲9620 | ▲10590 | 6.9 | 6.2 | 2.8 | ▲1.1 | ▲4.9 | 4.8 | 3.0 | 0.0 | 4.0 | 3.1 | | | | | |
| | 10月 | ▲7418 | ▲8207 | 9.6 | 3.1 | 4.8 | ▲0.4 | 3.2 | 4.4 | ▲1.8 | 7.9 | 3.7 | ▲3.7 | | | | | |
| | 11月 | ▲8988 | ▲7898 | 4.9 | ▲1.6 | ▲1.7 | ▲3.7 | ▲4.4 | ▲1.3 | ▲6.9 | ▲9.8 | ▲0.6 | ▲6.4 | | | | | |
| | 12月 | ▲6656 | ▲5869 | 12.8 | 1.9 | 3.9 | 8.4 | 3.6 | 0.3 | ▲1.8 | 8.8 | ▲6.6 | ▲4.1 | | | | | |
| 15 | 1月 | ▲11738 | ▲2993 | 17.0 | ▲9.1 | 11.1 | 2.9 | 6.4 | 15.4 | ▲6.3 | ▲14.7 | ▲7.8 | ▲9.9 | | | | | |
| | 2月 | ▲4285 | ▲5799 | 2.5 | ▲3.6 | ▲2.1 | 1.9 | 3.3 | ▲3.4 | 4.5 | ▲10.0 | ▲5.5 | 11.3 | | | | | |
| | 3月 | 2227 | ▲236 | 8.5 | ▲14.4 | 3.2 | 5.8 | 13.7 | 3.3 | ▲10.3 | 10.5 | ▲9.4 | ▲15.9 | | | | | |
| | 4月 | ▲593 | ▲2579 | 8.0 | ▲4.1 | 1.8 | 7.1 | 5.2 | 0.1 | 0.1 | 4.6 | ▲3.7 | ▲4.4 | | | | | |
| | 5月 | ▲2172 | ▲1552 | 2.4 | ▲8.7 | ▲3.8 | ▲6.7 | 1.4 | ▲2.3 | ▲5.3 | 1.6 | ▲7.4 | ▲8.8 | | | | | |
| | 6月 | ▲690 | ▲2517 | 9.5 | ▲2.9 | 0.0 | ▲3.0 | 6.5 | 3.1 | ▲1.4 | 3.8 | ▲5.4 | ▲1.6 | | | | | |

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支は赤字が続く

6月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は▲690億円の赤字（コンセンサス：+458億円、レンジ：▲2,401～+3,401億円）となった。輸出金額は、前年比+9.5%（コンセンサス：+10.0%、レンジ：+7.4%～+16.7%）となった。輸出数量は前年比横ばいだったが、円安等を背景とした価格の上昇が輸出金額を押し上げ、10ヶ月連続の増加となった。輸入金額は低水準の原油価格や数量の減少により同▲2.9%（コンセンサス：▲4.2%、レンジ：▲8.5～▲0.9%）と減少が続いた。なお、原油価格の下げ止まりを受けて、価格による下押しは徐々に和らいでいる。季節調整値では、輸出金額が前月比+4.4%、輸入金額は同+5.8%とともに高めの伸びとなった。季節調整値でみた貿易収支は▲2,517億円の赤字と、赤字幅は前月から拡大した。

○4-6月期実質輸出は4四半期ぶりのマイナス

為替などの物価変動の影響を除いた実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比+0.2%（5月：同▲4.1%）となった。前月の大幅減少からほぼ横ばいの推移に留まっており、期待外れの結果だ。この結果、4-6月平均は1-3月期平均比▲4.3%と4四半期ぶりの減少となった。

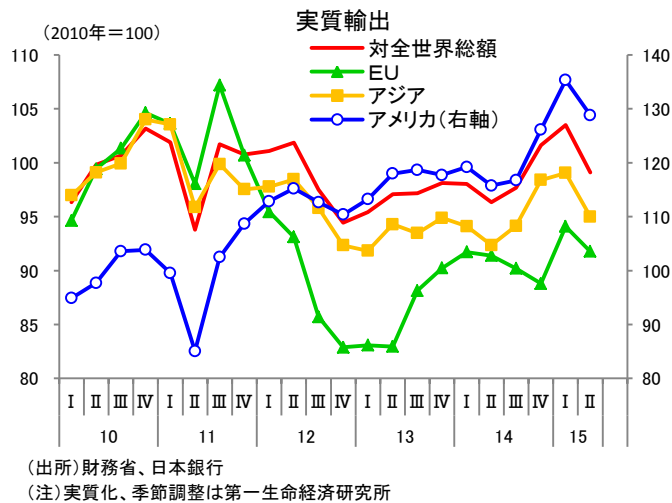
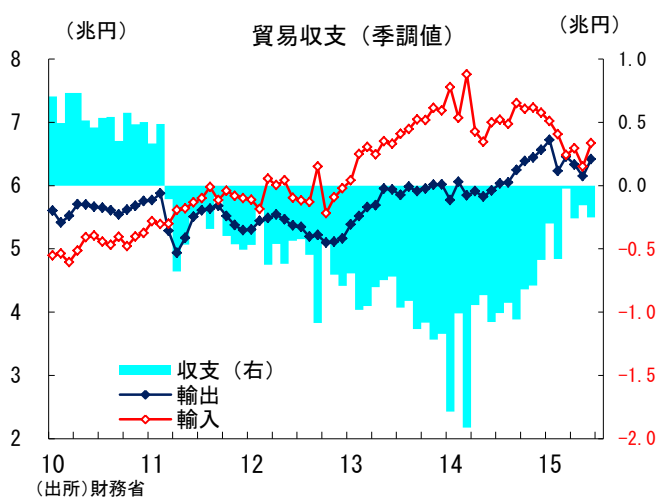
4-6月期の実質輸出を地域別にみると、米国向けは前期比▲4.8%、EU向けは同▲2.5%、アジア向けは同▲4.1%とそれぞれ減少した。4-6月期実質輸出失速の最大の要因はアジア向けだ。中国向けが同▲1.6%、NIEs向けが同▲3.6%、ASEAN向けが同▲10.0%となった。中国向けは2四半期連続の減少であり、中国経済の弱さが窺える。こうした中国経済の低迷がアジア新興国経済に波及、アジア向け全体の弱さに繋がったと見られる。米国向けは、一般機械、電気機器、輸送用機器といった機械類がそれぞれまとまった幅で減少したことが響いた。6月は一旦底を打ったことやこれまでの増加ペースが速かったことから水準としては低いものではないことを踏まえると、現時点では過度な悲観は不要だろう。EU向けも減少と

なったが、1-3月期の大幅増加の割には減少幅は小さく、内容はむしろ良好だろう。

以上のように、これまで実質輸出を牽引してきた米国向けが低調だったことに加え、中国経済の減速を背景にアジア向けも不調に終わったことが重石となった。

○海外経済の持ち直しが鍵

4-6月期の実質輸出は4半期ぶりに減少し、マイナス幅も大きく期待外れの結果であった。15年7-9月期も軟調な推移が続くようだと、輸出の減少は一時的とは言えず輸出の持ち直し予想に疑問符がつくが、現時点では先行きの実質輸出は徐々に明るさを取り戻すと予想している。先行きについては、海外経済が緩やかに持ち直すことが見込まれるためだ。実質輸出の最大のウエイトを占める米国は、1-3月期の低迷を脱し足元では再び景気回復基調に戻りつつある。欧州経済については、ユーロ安や金融緩和、原油安が後押しとなり緩やかな回復が続くだろう。また、中国経済については不透明感が払拭しきれないが、政策効果の顕在化を背景に底堅さを保つとみている。新興国経済については、中国経済の停滞が足を引っ張るものの、米国を中心とした先進国経済の改善が後押しとなろう。総じてみれば、海外経済は緩やかな改善が見込まれ、それに合わせて実質輸出も緩やかな増加基調を辿るとみている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。